

人が集う空間づくり

－イベント企画運営ワーキンググループの試み－

かわさき なおこ
川崎 直子
(理工学メディアセンター)

かとう りょう
加藤 諒
(理工学メディアセンター)

1 はじめに

近年、大学図書館においては非来館型サービスが充実し、以前とは館内の様子も変わってきているが、依然として図書館は多くの学生・教職員が集まる場所である。館内での様子を見ていると、学生は研究・学習するだけでなく、新聞や趣味の図書・雑誌を読んだり、パソコンを使ったり、友達と待ち合わせをするなど、大学生活の一部として図書館を利用していることがうかがえる。大学内において図書館は資料の収集・提供や、非来館型サービスの提供だけに留まらない付加価値を生み出すことが、求められている。

では、その付加価値とは何だろうか。理工学メディアセンター（以下「当センター」とする）では付加価値として、「人が集う空間づくり」に取り組んでいる。2010年度から2014年度まで活動していた学生グループS-Circleが、館内で相談業務やイベントなどを実施していた¹⁾。そのうち評判の良かったイベントについては職員が引き継ぎ、2015年4月にワーキンググループを立ち上げ、企画・立案から実施まで一貫して担っている。2017年8月現在、メンバーは専任職員および嘱託職員を合わせて7名となっている。本稿では2016年度以降の「イベント企画運営ワーキンググループ」（以下、「イベントWG」）の活動について報告する。

2 活動内容

(1) サイエンスカフェ

当センターのサイエンスカフェはアットホームな雰囲気サイエンス系の講演会で、講演者は理工学部の若手から中堅の教員である。テーマがホットで話題性が高いのはもちろんのこと、教養課程や他学

部の学生でも楽しめる内容になるよう講演を依頼している。また、お菓子と飲み物を用意し、事前予約不要で気軽に参加できるようにしている。

サイエンスカフェを当センターの看板イベントにすることが、イベントWGのひとつの目標であった。知名度を上げ、多くの学生にアピールするにはどうしたら良いかを検討し、まずは開催回数を増やすことにした。過去の実績と参加者アンケート結果から、ポスターを見て参加する人が多いことが判り、それまで年に1回だったところを2回に、また間隔を開けずに開催することを決めた。こうすることでサイエンスカフェをうたったポスターが長期間掲示され、多くの人の目に留まり、参加者の増加につなげることができた。

一番苦労したのは、講演者の選定である。過去のアンケートで希望が多かったテーマはもちろんのこと、当センターの学生スタッフに興味のあるテーマやそのテーマにふさわしい教員についてヒアリングも行った。また、大学主催のイベントで実際に教員の講演を聴き、学生の反応なども確認した。

2016年度最初のサイエンスカフェのテーマは、人工知能を選択した。2016年6月15日に、電子工学科の青木義満准教授を講演者に迎え、第10回サイエンスカフェ「画像認識にみる人工知能の現在と未来」を開催した。続いて6月27日には、番外編として電子工学科の真田幸俊教授による「兄信之から見た真田幸村」を開催した。NHK大河ドラマで『真田丸』を放映していた年であったことにあやかり、真田家当主であるご本人の講演ということもあって、その年ならではの催しとなった。

後述の4K対応大型テレビを導入した際は、4K技術を扱ったテーマでプランを立て、2017年5月15

日に情報工学科の金子晋丈専任講師による第11回サイエンスカフェ「ハリウッドから見たメディアインフラの未来」を開催した。実際に4K映像を披露していただき、最先端の映像技術に触れることができた。

そしてアンケートでリクエストの多かった建築をテーマにした講演を、システムデザイン工学科のホルヘ・アルマザン准教授に依頼し、6月27日に、第12回サイエンスカフェ「ACTIONSCAPES：活動を誘発する建築」を開催した。

サイエンスカフェは講演者との距離が近く、普段の授業とはスタイルもアプローチも異なる。学生には良い刺激になるようで、アンケート結果はどの講演も高評価である。

(2) ビブリオバトル

ビブリオバトルは2014年以来、毎年秋に開催している。年々参加者が増え、当センターの定例イベントとして定着しつつある。2016年は日吉メディアセンターの協力を得て、日吉キャンパスの学生にも声をかけてもらった。理工学部以外の学部生や教職員からのエントリーもあり、顔ぶれは過去に例を見ないほどバラエティ豊かになった。地区間の協力で、イベントがより充実した例と言えよう。

(3) 本の福袋

書店や公共図書館でも広がりつつある本の福袋とは、図書を数冊袋に入れて封をした状態で販売もしくは貸出するもので、中身は袋を開けてからのお楽しみである。慶應でも湘南藤沢メディアセンターが2015年より実施している。当センターでも試験的に2016年12月から2017年1月にかけて実施したところ、予想以上に貸出数が多かったため、今後も続けていく予定である。同じテーマの図書を2～3冊紙袋に詰め、学生の興味を引くキャッチーな文言を記載した短冊を添えた。これを紙袋ごと貸出するために、各図書の貸出用バーコードを新たに印刷して袋の外側に貼り、袋から図書を出さずに貸出手続きができるようにした。

普段は手に取らない図書と出会えるのも本の福袋の醍醐味であり、読書推進活動のひとつとして有益な手段だと確認できた。(図1)

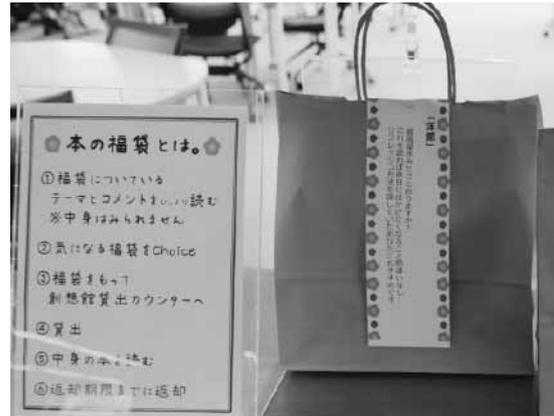


図1 本の福袋

(4) 4K対応大型テレビ導入

2016年10月、当センター所長の笹瀬巖教授（情報工学科）より、4K対応大型テレビ（75インチ）の寄贈を受けた。テレビは大型になればなるほど、表示される映像は粗くなるが、4Kではフルハイビジョンの4倍の画素数を表現でき、大画面でも繊細な映像を映すことが可能である。理工学部には4K映像転送などを専門とする研究者がいることから、単にテレビの映像を流すだけでなく研究面も含めた観点から活用を検討した。実際に、先に述べたサイエンスカフェでの情報工学科の金子晋丈専任講師の講演は、4K対応の機能を活かしたイベントとなった。

他キャンパスで実施されるイベントの中継も行った。2016年12月15日に日吉メディアセンターにて日吉、矢上、湘南藤沢3キャンパスの学生による合同トークセッションが開催された際には、その模様がYouTubeで配信され²⁾、当センターでは大型テレビを使ってライブ中継を実施した。画面に何かが流れていると気になって足を止める学生もおり、他キャンパスで行われているイベントでも需要があると考えられるものについては、これからも中継していきたいと考えている。

また、テレビ横にアンケート用紙と回収箱を設置した。学生にもテレビ活用のアイデアを求めることにしたのは、職員のみで意見を出し合うと、どうしても実現性の高さを第一に考えてしまう傾向があり、アイデアが偏ってしまうためである。今までに、「個人が編集した写真や動画を流したい」、「Ted Talksを流してほしい」などのアイデアが寄せられており、このうち実現可能なものから実行し、現在できないものも実現の可能性を検討するようにして

いる。今後も学生からのアイデアや要望を積極的に取り入れ、このテレビを大いに活用し、学生の学習・研究活動をサポートしていきたい。(図2)



図2 4K対応大型テレビ

(5) ひかりTV

イベントでの使用はもちろんであるが、テレビを日常的に活用するため、ひかりTVを契約した。ひかりTVとはフレッツ光回線を通して、多くのチャンネルを視聴することができる有料サービスである。図書館内で放送するためには法人向けプランであるひかりTV for Businessの契約が必要であった³⁾。検討段階では4K対応コンテンツが視聴できるものと考えていたが、法人向けプランでは、現在4K対応コンテンツはないことが判明した。そのため、導入に二の足を踏んだが、NHK World, BBC, CNNといった英語のニュース番組が視聴できることは、グローバル教育という観点から有意義であると判断し導入を決定した。今のところ留学生や、語学の教員から反応はあるものの総じて反応は薄く、これらの番組を活用した学習サポートができないか模索している。

また、テレビを利用した勉強の息抜きとしてJ SPORTS 1~4の各チャンネルの視聴契約をした。2017年3月のWorld Baseball Classic日本戦はライブ中継を予告・広報し、普段は図書館に来ない学生も多く集めた。通常どの番組を流すかは定め

ず、開館時に職員が選んでいるが、テレビの横にJ SPORTSの番組表を掲示し、希望があればチャンネル変更にも対応している。大学対抗戦のスポーツを見たいというリクエストもあったが、残念ながらJ SPORTSでは放映されていなかった。法人契約は一般向けプランより高額で、金銭的に導入が難しいコンテンツもあるが、学生のニーズも踏まえ、契約チャンネルについて検討が必要である。

3 まとめ

以上のように当センターは、多種多様なイベントを開催している⁴⁾。それは本来理工学の専門図書館がすべきことかと疑問を投げかける人もいるだろう。しかし、当センターで行っているイベント活動の本質は教育・研究活動への積極的なサポートにあり、その意味においては従来の図書館の役割と変わりはないと考えている。

専門図書館としての本質を忘れず、今後も人が集う空間づくりを目指し活動に励んでいきたい。

注・参考文献

- 1) 向當麻衣子. 理工学メディアセンター S-Circle活動報告 一 塾生による塾生のための相談窓口一. 2010, MediaNet. No.17, p.72-73.
- 2) 湘南藤沢メディアセンター. 慶應義塾大学の日吉・矢上・SFCの3地区合同トークセッション2016.
<https://www.youtube.com/watch?v=2vpe3Q6ezb4>
(参照 2017年8月29日)
- 3) 株式会社NTTぷらら. ひかりTV for Business.
<http://biz.plala.or.jp/solution/hikaritv/>
(参照 2017年8月29日)
- 4) 理工学メディアセンター. イベント情報.
<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/guide/event/index.html>
(参照 2017年8月29日)